

令和6年第4回(12月)

篠栗町議会定例会

12月5日(一般質問)

令和6年 第4回 定例会 会議録

日時 令和6年12月5日 午前10時

場所 篠栗町役場 議事堂

出席議員

1番	崎山佐穂	2番	浦野雅幸	3番	吉本文枝
4番	門馬良	5番	太郎良瞳	6番	横山和輝
7番	品川静	8番	古屋宏治	9番	栗須信治
10番	村瀬敬太郎	11番	今長谷武和	12番	荒牧泰範

欠席議員

なし

地方自治法第121条の規定により出席した者

町長	三浦正	副町長	大塚哲雄
教育長	今長谷寛	総務課長	田村明広
財政課長	藤忠文	財産活用課長	熊谷重幸
会計課長	西村智子	まちづくり課長	大内田幸介
税務課長	進藤功次	収納課長	平山智久
住民課長	有隅哲哉	健康課長	田中久善
福祉課長	村瀬菊子	産業観光課長	松熊大
都市整備課長	堀雅仁	上下水道課長	花田篤
学校教育課長	吉村秀昭	こども育成課長	藤幸三
社会教育課長	横内綾子	監査委員事務局長	佐伯和久

出席した議会事務局職員

局長	水江靖浩	次長	伴秀代
主事	黒瀬友宏		

開会 午前10時00分

○議長（荒牧 泰範） 皆さんおはようございます。

本日は、全員出席で開議は成立いたします。

なお、傍聴に来庁されました皆様には大変感謝申し上げます。傍聴に際しましては、一般質問通告書一覧1ページの注意事項に目を通していただき、御協力頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本日は議会事務局職員の写真撮影を許可しております。

それでは、日程第1、一般質問を行います。

質問者は2名でございます。質問時間は申合せにより、答弁を除き1人30分以内といたします。

この際、議員の皆様には議事進行に際してのお願いを申し上げます。質問議員も答弁者も言葉遣いに気をつけるように求めます。発言内容を精査して小職において処理いたします。これに御協力頂きます。

それでは、順次質問を許可いたします。

質問順位1番、崎山佐穂議員。

どうぞ。

○議員（崎山 佐穂） おはようございます。

議席番号1番、崎山佐穂でございます。

先日、11月17日に行われた篠栗町長選挙にて町民の信託を受け、6期目のスタートを切る三浦町長に、篠栗町の子育て・次世代教育政策についてお聞きいたします。

先日の選挙、また篠栗町に限らず多くの自治体で、世代交代や政治の刷新等の言葉が飛び交っています。様々な意見が尊重されるべきですが、多様性が重んじられ、年齢で区切ることですらエイジズムという差別と捉えられる時代ですので、年齢や性別に関係なく能力と覚悟そして情熱があれば町長としての職務を進めていけるものだと思います。

今回の選挙期間中、一部の町民から、特に政治の若返りを軸とした子育て政策の在り方について考えを聞く機会がありました。

このような政策とは、今の若い子育て世代のためだけではなく、これからの時代の町を担ってもらう人材育成として皆で考えやっつけていかなければなりません。

子育て世代の議員として、持続可能なまちづくりのためには、大きく見据えた子育て

てや次世代教育に対する政策や投資が必要不可欠だと思っています。

町長の今後4年間における、子育て・次世代政策についてお聞かせください。

○議長（荒牧 泰範） ただいまの質問に対し答弁を求めます。

はい、三浦町長。

○町長（三浦 正） おはようございます。

ただいまの崎山議員の「町の子育て・次世代教育政策」についてお答えいたします。

篠栗町では、第7次篠栗町総合計画「まちづくり未来チャート」に基づき、総合教育会議の承認を得て、篠栗町教育大綱を策定しております。

この教育大綱の具現化を図るために学校教育プラン、社会教育プランを毎年、そして、こどもいきいきプランを5年ごとに計画しており、この基本計画をもとに教育施策を実施しているところでございます。

その中で、「こどもいきいきプラン」により実施しているものとして、町には、子供たちが気軽に遊びに行くことのできる「集いの場」として、「児童館」を各小学校校区に設置しております。

篠栗小校区には「やまばと児童館」、勢門小校区はたは「たけのこ児童館」、北勢門小校区には「すぎのこ児童館」でございませう。

児童館では、乳幼児を対象とした「乳幼児向け教室」、「ティータイム」や、小学生を対象とした「みんなで遊ぼう」などの催しのほかに、演劇の鑑賞や工作・ダーツなど親子で楽しむイベント、「児童館フェスタ」なども開催しております。

その他の事業といたしまして、就労や病気等の理由で保護者が家庭保育できない小学生を対象に、適切な遊びや生活の場を与え、健全な育成を図ることを目的とした「放課後児童クラブ」学童保育でございませうが、これを実施しているほか、「日曜日一時預かり事業」といたしまして、保護者の傷病等による緊急時の保育またはリフレッシュが必要なときに、お子様を一時的にお預かりする事業なども実施しているところでございませう。

今年度は新たな取り組みといたしまして、町の児童厚生施設となる「たけのこ児童クラブ室」の新築工事を現在行っております。

勢門小学校校区の放課後児童クラブにおける待機児童解消のために、学童施設の新築工事を実施するものでございませう。

来年度は、篠栗小学校校区に「やまばと児童クラブ室」の建設を実施いたします。

また、既に議会へ報告しておりました、「子ども第三の居場所事業」にも取り組ん

でおりまして、子ども第三の居場所事業の目的といたしましては、全ての子供たちが未来への希望を持ち、安心して過ごすことができる「子ども第三の居場所」を設置し、その居場所が地域の子育てコミュニティとなることで、「みんながみんなの子供を育てる」町、そういうまちを目指すための事業でございます。

具体的には第三の居場所として、子供の、1正しい生活リズム、2健康を支える食事、3学習サポートのほかに、4保護者へのフォロー、5体験活動及び地域とのつながりなどの事業でございます。

主に、学齢期の児童を対象として、児童の居場所となる拠点を開設し、児童の生活の場を与えると同時に児童や児童の保護者からの相談を受け付ける予定としております。

この事業につきましては、令和5年度より「子どもの居場所支援事業」として、NPO法人地域コミュニティーセンター「こころん」が、拠点事業「フリースペース SHIN」を町の補助で運営していますが、今回、場所を移転し、子育てコミュニティとして事業を拡大し運営を行うものでございます。

令和7年度におきましては、事業の移転先を、老松神社横のくすのき公園の場所に施設を新築し、施設自体につきましては、全ての子供が利用できるように、「こころん」の職員と地域住民のボランティアで運営を行うこととしております。

次に、次世代教育政策につきましては、学校教育プランで示しておりますように、「先行きが不透明で将来の予測が困難な状態」を意味する VUCA の時代、そして我が国が目指すべき未来の姿である Society 5.0 を生き抜ける教育の必要性を感じているところでございます。

具体的には、社会への適応能力を含めた非認知能力を持った子供の育成を目的に、篠栗町では共育を推進しているところでございます。

幼保小中学校では、「学びの共同学習」として、学びの共同体の理念をもとに、全ての子供たちが主役になれる、1人も取り残さない教育を実施しております。また、学校に登校できない児童・生徒のために、学校支援センターの拡充と新規事業を行うことで、不登校児童・生徒の低減を目指します。さらに福岡工業大学や福岡女学院大学と包括連携協定を締結しておりまして、数々の子供たちの健全育成事業を行っているところでございます。

これからは、ICT を活用した授業実践や教材研究資料のデータベース化により、児童生徒の情報リテラシーの向上を目指します。

今後、子育てに関する保護者の不安の解消や養育支援並びに教育への悩みなど、子

供に関する事と全ての相談に一括して応じる窓口といたしまして、そういう機能を持つ「子ども・家庭センター」をオアシス篠栗内に設けます。

また、私の友人で九州工業大学飯塚キャンパスの教授で、篠栗在住の方がいらっしゃいまして、今後、女子の理系への進出こそ、日本の企業の担い手不足を解消する大きな手だてになるとの御意見を頂いております。そのためには、九州工業大学が町内中学校に出前講座などを企画して、理系の面白さ、工学部系の面白さを伝えて、興味を持ってもらう手立てを考えているとお話し頂いております。近畿大学飯塚キャンパスからも、教育関係における何らかの連携協定を結びたいとの申出もあっております。

今後は、既存の連携先であります福岡工業大学や福岡女学院大学をはじめ、近隣の大学との連携をこれまで以上に深め、将来を担う人材の育成に力を入れるべきだと考えております。

どうぞよろしく申し上げます。

○議長（荒牧 泰範） 崎山議員、再質問ございますか。

どうぞ。

○議員（崎山 佐穂） はい、しっかりと、町の子育て、それから次世代教育支援の政策、この対応プラン、とても充実したものが考えられているなと思いますが、実際の、例えば不登校に関してだったりとか、全てにおきまして、現場の充実というものが大変重要になってくると思います。

先生が疲弊しては、やっぱり、幾ら研修を受けても、実際に子供たちに接するときに、幾ら勉強を頭でしていても実践できなかったりとか、そういうふうにはやっぱり人材不足だったり、現場をいかに円滑に回していくかということが、実際これが行われていくためにはとても大切なことだと思っています。

なので、具体的にその現場までしっかりこれが行き渡るためにはどうしたらいいか、もう一度お聞かせください。

○議長（荒牧 泰範） 答弁者は町長ですが、現場、どちら、教育長、どちらが答弁なさいますか。

教育長でよろしいですね。

はい、教育長。

○教育長（今長谷 寛） はい、質問ありがとうございます。

今お話がありましたし、町長からも示していただきました。

これについては既に実践を始めているところではありますけれども、一つは、学校

現場において、子供たちがやはりしっかり居場所を持てるという、そういう学校にしたいというのが一つあります。

そのためにはどうするかということなのですが、答弁の中にもありましたように、学びの共同学習というのは、子供たち一人一人が主役になるような授業・学習を進めていく。今まではどちらかというと、学習が進んでいる子供が中心の授業でしたが、これからは、困っている、頑張ろうとしている、そういう子供たちが主役になるような授業を実践するために、今、教育委員会のほうから各学校に、指導をしてもらう担当者を毎週1回派遣し、支援をしていただいています。

それから不登校に関しましても、教育支援センターをさらに拡充するという意味で、オアシスのほうに、より広い場所を確保し、そしてその中に、いろんな多様なニーズを持った子供たちに対応できる、そういう設備の拡充を今行っているところでございます。

また、支援センターだけでなく、各地域の事業者をお願いして、各事業所でも、そういう困っている子供たちを受け入れる事業所があれば、ぜひ協力頂きたいということで、そういう訪問事業という形での拡充を図りながら、事細かに、全ての子供たちに対応できることを狙って進めているところでございます。

以上です。

○議長（荒牧 泰範） はい、再質問ございますか。

はい、崎山議員どうぞ。

○議員（崎山 佐穂） はい、教育長がおっしゃったこと、理解できました。

もう一つ、最後もう一つは、それをいかに保護者がこういうものがあるんですよ、という、あったとしても伝わらなかったら、ないと思われてしまうということが、とても残念な状況になると思いますので、またこれを親御さんに伝えるためには、どうしたらいいかということ、特に学校に来ていない子で、やっぱりつながりが段々、毎日先生たちも電話をしたりとか、アプローチをかけると思うんですけど、やはり、なかなか伝わりにくいと思うんですよ。

なので、いろんなツールがある時代ですので、教育長は、そうやって情報がしっかり行き渡るようにするには良いとどう思われますか。

○議長（荒牧 泰範） はい、教育長。

○教育長（今長谷 寛） はい、ありがとうございます。

今のお話は、ぜひともですね、全ての町民にというか、全て皆さん方に、特に必要性を感じてある保護者の皆さんに伝える必要があるというふうに感じております。

来年度の予算の中にも、その辺りのところを、十分加味したものを今準備しておりますので、これから SNS など、いろんなツールを使って、現在、町が教育施策として行おうとしているところの広報を進めてまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（荒牧 泰範） 再質問ございますか。

はい、次に参ります。

質問順位 2 番、吉本文枝議員。

どうぞ。

○議員（吉本 文枝） おはようございます。

議席番号 3 番、公明党、吉本文枝でございます。

本日は、2 問質問いたします。

初めに、「窓口業務に軟骨電動イヤホン設置を」についてです。

役場窓口には、日々来庁者があり丁寧な対応がされていると思います。

今回は高齢者の対応について質問いたします。

よく見えない人には老眼鏡があり、よく聞こえない人には補聴器というものがあります。窓口には老眼鏡が置いてあるところがありますが、補聴器に関係するものはまだまだ不十分な窓口が多いようです。

そこで、よく聞こえない人への補助具として、軟骨電動イヤホンというものがあります。500 年以上前の 15 世紀から音が聞こえる経路として、空気中の振動を聞く気導と、骨から伝わる骨導の二つの経路は知られており、これを利用した多くの機器は販売されてきました。

一方で、2004 年に奈良県立大学の細井教授が、耳の軟骨に振動を与えることで気導や骨導と同じように音が伝わることを発見し、これを軟骨伝導と名づけました。

軟骨電動イヤホンは高齢者や聴覚に障害がある人にも聞こえやすくなるほか、通常のイヤホンと違い耳の穴の奥に付けないため痛みはなく、汚れにくいのが特徴です。イヤホンに穴や凹凸がないので拭き取りやすく、不特定多数の人が使用しても衛生的です。また、小さな声でもはっきりと聞こえるので、職員も大きな声で話す必要がなく、個人情報や相談内容が周囲に漏れることを防ぐことができます。

近隣では、粕屋町、志免町に導入されています。

軟骨電動イヤホンを設置することは、大切な住民サービスの一つと考えますが、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（荒牧 泰範） ただいまの質問に対し答弁を求めます。

三浦町長。

○町長（三浦 正） ただいまは、吉本文枝議員から、1問目といたしまして、「窓口業務に軟骨電動イヤホン設置を」という御質問を頂きました。

軟骨電動イヤホンについては、ただいま議員から御紹介がありましたとおり、違和感なく声がよく聞こえ、窓口での聞こえにくさを解消し、コミュニケーションを円滑にするための手段として、全国的にも導入が進んでおり、糟屋郡内においても志免町と粕屋町が既に導入をしております。

糟屋郡の町長会におきましても、この有効性を非常に、両町長から私どもも報告を受けておりまして、私もこれは早速導入すべきだということで、考えているところでしたが、ただいま御質問を頂きましたので、もう少し詳しく御説明をいたしますと、篠栗町においての耳が聞こえづらい方への窓口対応につきましては、ゆっくりと大きな声で説明を行い、相談の内容によっては筆談などの方法を用いて、現段階においては、特段のトラブルもなく対応を行っているところではございますが、大きな声での会話は、先ほども御指摘がありましたとおり、プライバシー保護の観点からの懸念もありまして、筆談での対応も、相談者及び対応する職員に対して一定の負担が生じることは考え、双方ともに改善する余地があると思われておりました。

軟骨電動イヤホンの導入により、通常の会話に近い形でコミュニケーションを図れることが期待されまして、耳が聞こえづらい方でも、より気軽に来庁できる窓口になると考えられます。

糟屋郡内の導入自治体の状況を確認したところ、利用に際しての課題も認められないことでもありますから、篠栗町においても早急に導入を指示してまいりたいと考えております。

○議長（荒牧 泰範） 再質問ございますか。

はい、吉本委員。

○議員（吉本 文枝） 設置していただくということで嬉しく思います。

それで、軟骨電動イヤホン自体を知らない方がいらっしゃるのも、また年齢関係なく耳の聞こえにくい方はいらっしゃると思いますので、どなたでも使えるような工夫をしていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（荒牧 泰範） はい、町長。

○町長（三浦 正） 実際、私も会議の席上、現物を見まして、非常に使いやすく、それから先ほど御指摘ありましたように、衛生面でも心配することがないということをしっかり伝えていきながら、どなたでも御利用できますよ、ということをお伝えし

て、利用頻度を高める必要があるかと思っておりますので、その点におきましても努力してまいりたいと思っております。

○議長（荒牧 泰範） 再質問ございますか、1問目は終了ですね。

では、次の質問にどうぞ。

○議員（吉本 文枝） 次に移ります。

9月議会では認知症の人と家族を笑顔にするための取り組みを提案しましたが、認知症になる前の予防も必要と考えます。

認知症になる原因のうち難聴は対処可能なものの一つであることから、「ヒアリングフレイルチェックの取り組みについて」質問します。

ヒアリングフレイルとは、聴覚機能の低下による身体の衰え、フレイルのことを示し、聴覚機能の衰えつまり難聴を意味するとともに、難聴によって周囲との関わりが大きく変化しフレイルに陥ることや、フレイル傾向になってしまうことを言います。

周囲が聴力の低下に気づかず、この状態を放置すると、他のフレイルと同様に心身の活力の衰えが進み、認知症や鬱病になるリスクが高まることが懸念されます。

また、災害時の避難所では、運営スタッフの声がよく聞き取れず、大事な情報を聞き逃してしまうなど、情報格差につながるのではないかと憂慮されます。

日本の想定難聴者が1,430万人。10人に1人が難聴の時代と言われていますが、聴覚の機能の低下を、加齢による身体の低下や認知機能の低下と勘違いするケースがあります。

例えば、話かけても以前のように反応しなくなった、外出するのが億劫になった、部屋に引きこもることが多くなった、以前より怒りっぽくなった、大好きなテレビを急に見なくなった、以前に比べて会話が難しくなった、などの症状が見られる人は聴覚機能の低下が原因の可能性があります。

社会的孤立や認知症の予防の観点から、「ヒアリングフレイルの予防」について、広く周知啓発が必要と考えます。

そこで2点お伺いします。

1点目、ヒアリングフレイルを予防するには、本人や家族など、周囲の人ができるだけ早く気づくことが大切です。福岡県のフレイル予防の取り組みとして、ヒアリングフレイルチェックがホームページに分かりやすく紹介されています。無料のアプリも紹介されており、スマートフォンで簡単にヒアリングフレイルチェックができます。

今後、ヒアリングフレイルチェックを多くの人に実施していただくためにも、「認

知症カフェ」や特定健診でのお声かけ、相談会の開催、広報誌などでの周知啓発をしてはいかがでしょうか、町長のお考えをお聞かせください。

2点目、難聴者のリスクとして社会への関わりの減少による孤立などがあります。

ヒアリングフレイルの対処法には、補聴器などの適切な支援機器の選択と活用が必要だと考えます。

町として、軟骨電動イヤホンなどの集音機や補聴器の情報提供、またそれらを積極的に活用することを促進することで、健康長寿のまちづくりにつながると考えますが、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（荒牧 泰範） はい、ただいまの質問に対し答弁を求めます。

三浦町長。

○町長（三浦 正） ただいまは、2問目として「ヒアリングフレイルチェックの取り組みについて」、2点の御質問を頂きました。

まず、質問の1番目「特定健診や相談会での声かけ、広報誌を活用した周知啓発を行い、ヒアリングフレイルチェックを多くの人に実施してもらい取り組みを進めてはどうか」という御質問でございました。

ヒアリングフレイルというのは、聴覚機能の低下が原因で心身の活力が衰え、認知症や鬱病、さらには社会的孤立を引き起こすリスクを高める重要な健康課題であると認識しております。そのため、早期に発見し予防することが非常に重要だと考えております。

現在、篠栗町では特定健診の場でヒアリングフレイルについて、直接的なお声かけは行ってはおりませんが、健診結果説明会の際に、受診者全員に「お困りのことや、不自由な点はありませんか」とお声掛けし、ヒアリングフレイルを含む様々な健康課題に関する相談をお受けしているところでございます。

このように、町民の皆様が幅広い健康課題に気づくきっかけを提供しており、間接的ではありますが、聴覚機能の低下についても意識を促しているところでございます。

今後の取り組みといたしましては、福岡県の事例を参考にしながら、町の本広報誌やホームページを活用してヒアリングフレイルチェックの重要性を町民の皆様にお伝えする方法を検討してまいります。

また、特定健診のさらなる活用も視野に入れまして、健診会場でのポスター掲示やパンフレットの配置を通じて、聴覚低下への気づきを促進できるよう啓発を進めてまいります。

2番目の「補聴器などの情報提供や積極的活用の促進を」という御質問にお答えいたします。

吉本議員御指摘のとおり、難聴は生活や社会参加の範囲を狭め、フレイルや認知症等のリスクを高める要因になり得ることなど、特に高齢期の生活に及ぼす影響が大きいため、難聴が社会参加に障害にならないよう、町といたしましても、窓口や広報等を通じて、補聴器などの聴覚補助機器の情報発信を行いまして、その活用促進をしてまいりたいと思っております。

また、将来的には、身体機能や認知機能の状態にかかわらず、誰もが生活しやすい健康長寿のまちづくりを目指してまいりたいと思っております。

現在、福岡工業大学の檜崎先生に、元気もん調査を含めた複数年にわたって篠栗町の健康維持のためのいろんな取り組みを依頼しているところでございますが、こうした取り組みの中でも、この難聴を含めたフレイル対策をしっかりと私どもからもお願いしまして、そこに特化した取り組みも含めた事をお互い協力し合いながら進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（荒牧 泰範） 再質問ございますか。

はい、吉本議員。

○議員（吉本 文枝） ありがとうございます。

ヒアリングフレイルチェックの内容ですけれども、ヒアリングフレイルの内容は御存じでしょうか。

その内容自体は本人だけというよりも、御家族と一緒にしていただくことで、次の受診など、次の行動に移ると思われませんが、御家族全体にも伝わるような伝え方を考えてあるのでしょうか。

○議長（荒牧 泰範） はい、三浦町長。

○町長（三浦 正） 今御指摘のことも含めて、今後さらに家族も含めて、ちゃんとヒアリングフレイルの防止、あるいはその実態のことをチェックできる体制をつくっていきたいと思っております。

正直なところ、私もいささかヒアリングフレイル気味でございまして、必要なときには補聴器を使用しているわけでございますが、それによって家族も非常にお互いにコミュニケーションがとりやすくなったと言われておりまして、そういう私の経験も含めて、体験も含めて、しっかり機会あるごとにお話ししてまいりたいと思っております。

○議長（荒牧 泰範） 再質問ございますか。

○議員（吉本 文枝） 終わります。

○議長（荒牧 泰範）はい、以上で、本日の議事は全て終了いたしました。
これをもちまして散会といたします。

散会 午前10時33分